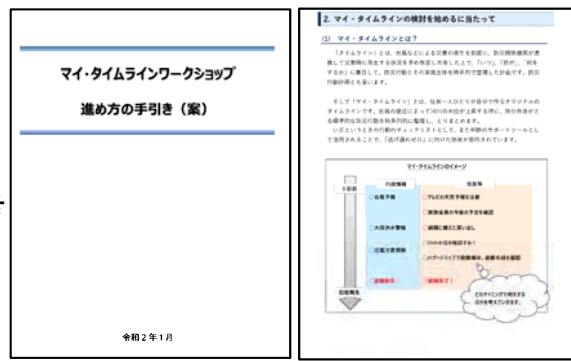


○住民が自らの判断で避難行動をとることで逃げ遅れを無くすための、「住民等自らによる避難行動計画(マイ・タイムライン)」の作成が推進されている。

手引きの作成

- 静岡県
 - ・藤枝市をモデルとして実施した、住民参加のマイ・タイムライン作成ワークショップの過程を参考に、市町職員や地域の防災リーダー向けのマイ・タイムライン作成のための手引書を作成



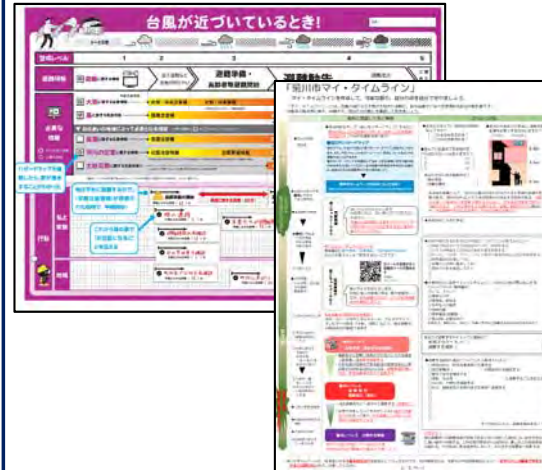
HPIにてマイ・タイムライン作成推進

- 静岡県: 静岡市、菊川市
- 宮城県: 仙台市
- 東京都
- 京都府
- ・HPIにて、マイ・タイムラインの作成を推進

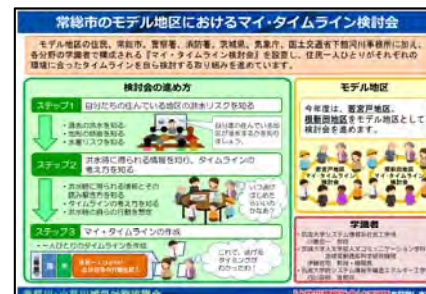


みんなでタイムラインプロジェクト

- 下館河川事務所
 - ・HPIにて、「みんなでタイムラインプロジェクト」を紹介し、マイ・タイムラインの作成を推進し、実施された活動事例についても公表
- ① 常総市小中学校(大生小学校、鬼怒中学校、菅原小学校、豊田小学校、水海道小学校、三妻小学校)
 - ⇒ 一斉学校防災訓練におけるマイ・タイムラインを作成



- ② 常総市モデル地区(若宮戸地区、根新田地区)
 - ⇒ 検討会を実施し、マイ・タイムラインを作成



企画展を実施

➤ 荒川下流河川事務所

・マイ・タイムラインに焦点を当てた企画展を実施

①パネル展

⇒マイ・タイムラインの役割や必要性、水防災に対応した暮らし方等をパネルで紹介

②自宅リスクチェック

⇒チェックシートで水害リスクを確認、帰宅後にマイ・タイムラインを作成する際の判断材料として

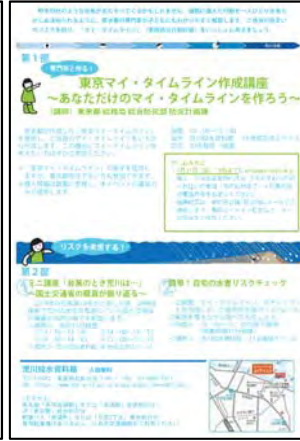
③冊子配布

④避難場所と避難所体験

⇒2つの違いを解説し、いざ避難するときに必要な準備や注意点を紹介し、体験コーナーも設置

⑤水防災体験ワークショップ

⇒東京都が作成した「東京マイ・タイムライン」を使用してマイ・タイムラインを作成



▲配布チラシ

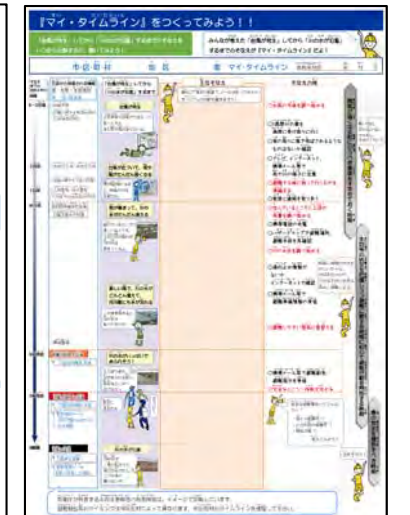
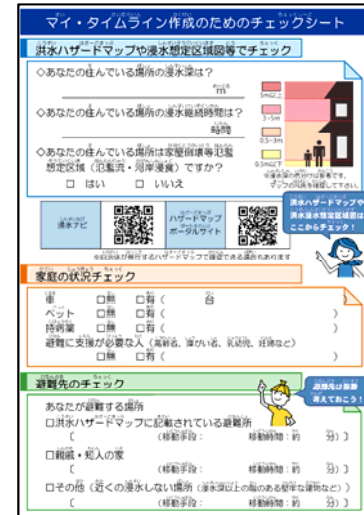


▲企画展の様子

マイ・タイムライン検討ツール

➤ (一財)河川情報センター、下館河川事務所

・マイ・タイムライン検討ツールとして、「逃げキッド」を作成し配布



▲逃げキッド(一部抜粋)

※(一財)河川情報センター:全国版
下館河川事務所:鬼怒川・小貝川版

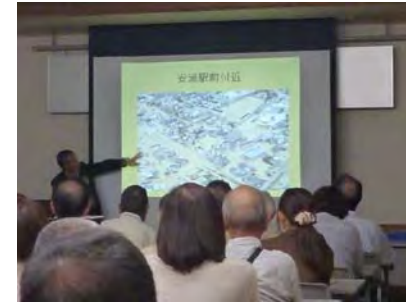
タブロイド紙の配布

- 神奈川県:川崎市
 - ⇒風水害からの避難をテーマとした防災タブロイド紙を発行し、市内の家庭及び事業所に全戸配布



ワークショップ、研修等

- 静岡県:藤枝市
 - ⇒志太地区をモデル地区に定め、藤枝市と静岡県が共同でマイ・タイムラインに関する講演、ワークショップを実施



▲講演の様子

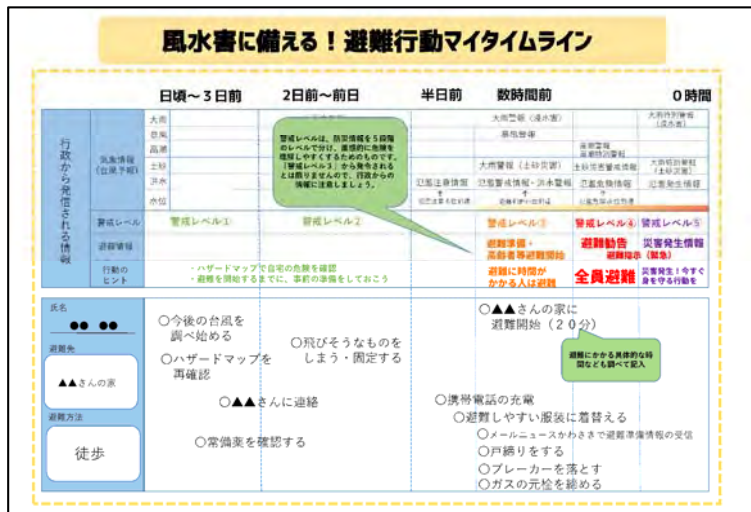


▲マイ・タイムライン作成の様子

- 佐賀県:佐賀市
 - ⇒水害防災の「マイタイムラインづくり」の研修を実施し、マイ・タイムラインを作成



▲研修の様子



▲タブロイド紙(一部抜粋)

ハザードマップの電子化(1/3)

- 各自治体において作成されていたハザードマップは、従来紙媒体で配布・作成されていたが、近年電子化が進められている。
- 国土交通省により、ハザードマップをインターネットで一元検索できるシステムも構築されている。

総合ポータルサイト

国土交通省

- ・全国のハザードマップ情報をインターネットで一元的に検索できる、ハザードマップポータルサイトを運用(洪水、内水、津波、高潮、土砂災害、火山などのハザードマップを対象)

▲パンフレット

▲WEB画面

各自治体の電子化ハザードマップ

浸水想定区域図や、津波浸水予測範囲に加え避難所等必要な情報を適宜重ねて表示させることが可能。

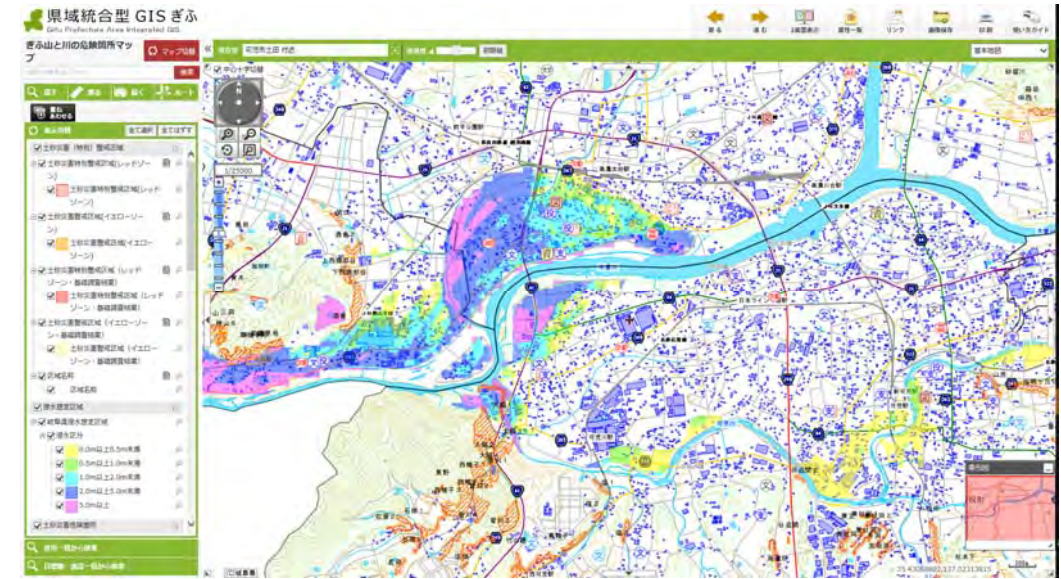
静岡市の事例

・静岡市防災情報マップとして公開



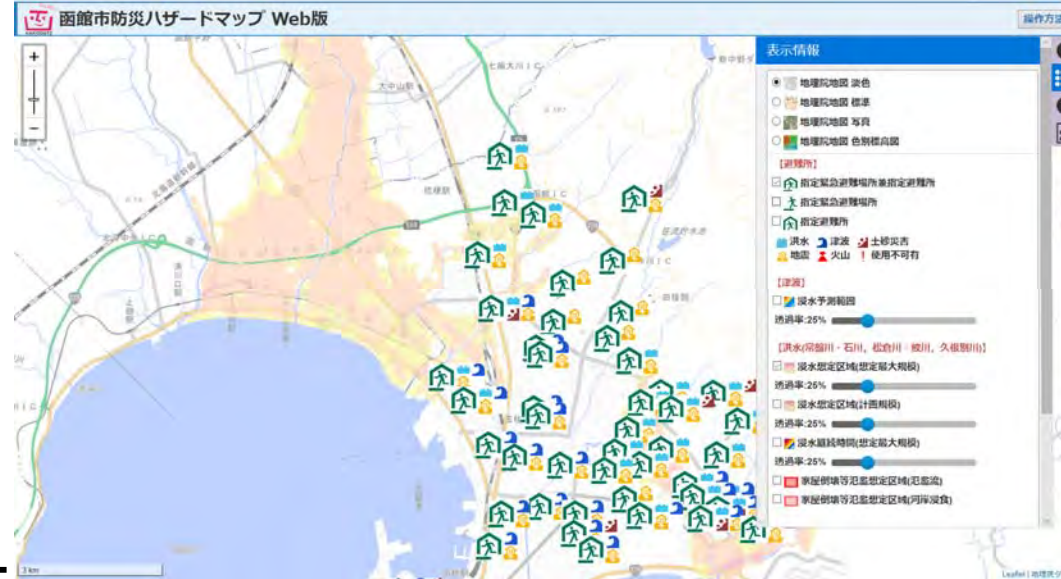
岐阜県の事例

・県域統合型GISぎふとして公開



函館市の事例

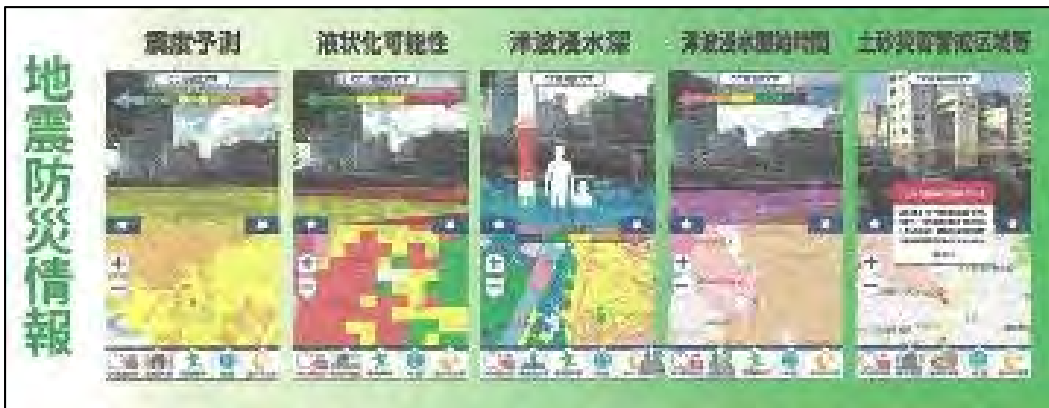
・函館市防災ハザードマップとして公開



各自治体の電子化ハザードマップ

名古屋市の事例

- ・名古屋市防災アプリとして公開
- ・名古屋市の地震災害や洪水災害等の防災情報や、災害時等に公共交通機関が止まってしまった場合に徒歩で帰宅する際の帰宅支援情報を、スマートフォンやタブレット端末で確認可能
- ・現在位置周辺の被害想定や避難所情報が、カメラで撮影した実写の映像に合成して表示され、視覚的にその施設等がある方向や距離を把握することが可能
 - ⇒震度、津波浸水深、河川洪水による浸水深等の「被害想定情報」や避難所、津波避難ビルなどの「避難所情報」が合成されて表示
 - ⇒GPS情報と連携して地図を表示でき、災害時に加え、実際に市内を歩いている防災訓練や事前学習にも使用可能



▲津波浸水深等を3Dシミュレーションで分かりやすく表現



▲徒歩帰宅支援ステーションや避難施設等の場所が表示され、帰宅困難時にも活用



▲市内の河川の浸水予測や、河川水位等の水防情報をリアルタイムで見ることが可能



▲事前に地図データ(国土地理院地図)をダウンロードでき、災害時に通信機能が使用できなくなっても、地図を利用することが可能